上海の郊外ニュータウンの整備実態に関する基礎的研究

日本大学大学院　学生会員　○励　　　瑩
日本大学　　正会員　　大沢　昌玄
日本大学　フェロー　　岸井　隆幸

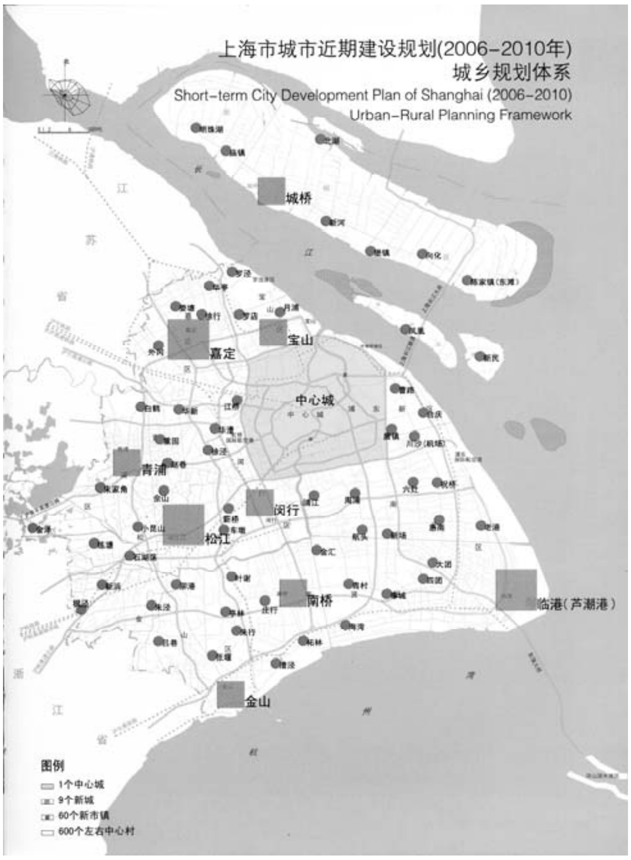
１．はじめに

急激に成長する上海において、集中する人口を受け入れさらに拡大する都市化に予め対応できるよう郊外部にニュータウン（以下、NT とする）が整備されている。中国の NT については、姚琳らの研究[1)][2)]で中国の経済技術開発区と上海の衛星都市の 1980 年代までの整備実態が明らかにされているが、それ以降、特に中国の経済発展が著しい 2000 年代の NT の実態を扱ったものは見られない。

一方、日本では、40 年前の高度成長期に多摩 NT や千里 NT など多くの NT が整備されたが、高齢化や建物の老朽化など多くの問題を抱えている。また計画人口など当初の計画と現在の実態がかけ離れている状況も確認（多摩 NT：当初の計画人口 30 万人、現在 21 万人）されている。現在の日本が抱えている NT 問題と同じ問題が中国でも発生しないよう今から十分検討しておく必要がある。その意味でも、現在の上海における NT 整備の実態を明らかにする必要があり、本研究では、上海における NT の計画的位置づけを解明した上で、上海の都市計画の体系を把握し、人口変遷と産業立地を分析する。そして 1990 年以降、上海で最初に NT として整備着手された、松江 NT の整備を明らかにする。

２．上海における都市計画体系とニュータウンの定義

日本の市町村都市計画マスタープランに相当する「新上海城市総体規劃 1999-2020」が 2001 年に定められており、その中で都市の 4 層の体系を確立した。新城、中心鎮の建設を重点とする城鎮化戦略では “一城九鎮”をコンセプトとして、松江 NT をはじめ、及び 9 つの中心鎮を第一弾として整備する。「上海市城市近期建設規劃 2006－2010」では、“1966”城鎮体系[4)][5)]について中心城‐新城‐新市鎮-中心村（図‐1）という体系で、中心城と 9 つの新城を集中的に整備することとした。



図‐1　上海市城郷規劃体系図

日本において、都市計画法等にも NT の定義はなされていなく、NT の共通的な定義はなされていない。中国においても、NT（新城の英訳は New town であるが、Satellite town（衛星都市）と呼ぶこともあり、新市鎮を New town と訳す時もある）の法的定義はなされていない。張捷らは中国における新城[3)]を、「特定の政策目的の上で、計画及び建設を行う」「大都市の郊外に立地及び永久的な緑地と中心都市を分離する」「交通便利、施設完備、環境優美、大都市区域の中心城の居住機能及び産業機能分担ができる」「独立な都市のコミュニティを形成する」この要件を備えた都市を NT と呼ぶとしている。

キーワード　上海、ニュータウン、新城
連絡先　　　〒101-8308　東京都千代田区神田駿河台 1-8 理工学部 9 号館 7 階　ＴＥＬ03-3259-0553

３．上海市の常住人口の変遷及び開発区[6]、新城の立地

ここで上海の人口変化を把握する。上海統計年鑑によると、市の常住人口（戸籍人口に半年以上居住する外来住民を加えたもの）は 1978 年の 1,104 万人から 2008 年までの 1,921 万人に増加した(図-2)[7]。なお戸籍人口(当該市の戸籍を持つ現地の住民数）の差は 1978 年の約 6 万人から 2008 年までに 520 万人と増えた。つまり、1990 年から上海の戸籍人口を持っていない外来人口が上海市に大量流入したことがわかる。次に各区の人口の動きと産業を集積する開発区、新城の立地の特徴を見出すため、四つの地区[8]に分類した（表-1）[7) 9)]。1990 年から 2009 年までの常住人口の増減割合からみると、中心区では 21%から 5%までに減った。逆に、郊外区では 32%から 44%までに増加した。特に 2005 年から 2009 年の外来人口割合では約上海の外来人口の半分が郊外区にいる。開発区と新城の分布は約 65%が郊外区に立地している。

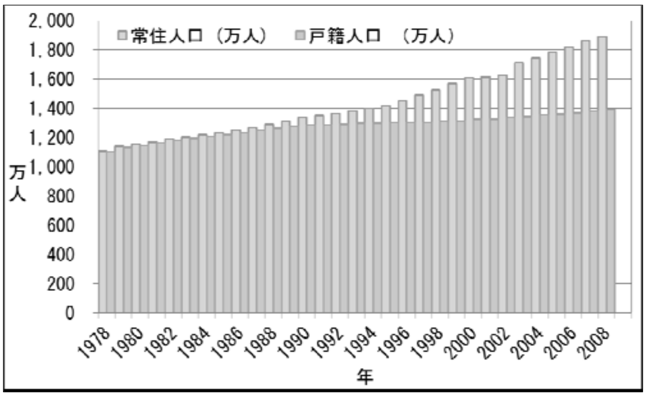


図-2 上海市の常住人口と戸籍人口

表－1 上海市常住人口の動き、開発区及び新城の分布

地 区	1990年	1995年	2000年	2005年		2009年		開発区分布		新城分布
	常住人口(万人)			常住人口(万人)	その中外来人口(万人)	常住人口(万人)	その中外来人口(万人)	国家レベル	市レベル	計画
	総人口に対する割合(%)									
中心区	266.52	196.87	137.57	103.66	13.71	104.98	16.61	0	0	－
	21%	15%	10%	6%	1%	5%	1%	0%	0%	－
周囲区	439.49	439.7	490.67	550.76	83.41	547.99	81.06	2	3	－
	34%	34%	37%	31%	5%	29%	4%	13%	12%	－
近郊区	170.09	171.46	194.99	395.58	145.3	428.52	162.21	6	6	3
	13%	13%	15%	22%	8%	22%	8%	40%	23%	33%
郊外区	407.25	493.34	498.4	728.42	195.98	839.83	282.05	7	17	6
	32%	38%	38%	41%	11%	44%	15%	47%	65%	67%
合計	1283.35	1301.37	1321.63	1778.42	438.4	1921.32	541.93	15	26	9
	100%	100%	100%	100%	25%	100%	28%	100%	100%	100%

４．松江 NT と工業会社数、従業員数について

上海のNT計画の第一弾として、1991年1月から松江区において松江NT（上海市中心部から南西約40kn）の開発が始まった。初期計画3,939ha、計画人口は30万人、5つの機能構造として旧城区域、新城区域、ハイテク科学技術園区域、工業区域、大学城区域に分けられる。日本のNT計画は、丘陵地を切り開き新たに住宅地を形成するが、中国のNT計画の特徴として、農村の田畑及び更地を住宅地として開発することが多く、それに市の旧市街地がNT計画の一部に取り入れ、一体的に開発を進めるという面がある。また、新たな住宅地形成する以前に、その周辺部に工業団地を予め作り雇用の確保も行われている。計画人口には大きな課題がある。新たに住宅地として開発された中に、英国をイメージした100haのテムズタウンがある。住宅宅地は全て完売とのことであるが、投資目的で購入したパターンが多く、実際に住んでいる世帯は、4割にも満たないともいう。そのため、テムズタウンの設置されているセンター地区の商業施設は、ほぼ空き家になっているなどの問題が生じている。なお2005年から2009年の松江区の常住人口は、89万人から119万までに増加した。増加した人口のうち、外来人口の割合が約45%を占めた。松江区の工業を営んでいる会社数は1999年の1,325社から、2009年には1,913社まで増えた。また、その工場にて1999年では14.33万人の従業員が働き、2009年までに約2.8倍となっていた。

５．今後の課題

本研究において、上海市の NT の計画的位置づけを明らかにした。また松江ニュータウンの整備実態も明らかにしたが、計画人口が満たないなど日本の NT と同じような課題も確認できた。今後は、松江以外の 8 つの NT の実態を解明し、上海の NT の全体像と課題を明らかにすることを予定している。

参考文献： 1）中国におけるニュータウン開発・計画に関する研究 ：経済技術開発区について，姚 琳 ，北原 理雄，研究報告集（68)，社団法人日本建築学会，1999 年 2 月 25 日 pp. 449-452. 2）中国におけるニュータウン開発・計画に関する研究 その 2）上海の衛星都市について，姚 琳 ，北原 理雄，研究報告集（69)，社団法人日本建築学会，1999 年 2 月 28 日 ，pp. 449-452. 3）新城規劃与建設概論，張捷編著，天津大学出版社，2009 年 9 月，pp. 194-195. 4）上海城市規劃管理実践－科学発展観統領下的城市規劃管理探索，上海市城市規劃管理局編著，中国建築工業出版社，2007 年 5 月 5）1966 の城鎮体系：中心城-新城(9)-新市鎮(60)－中心村(600)（新市鎮のうち中心鎮の 22 個と一般鎮）計画人口：新城：20-30 万人；個別新城：80-100 万人； 中心鎮 5-10 万人；一般鎮：1-3 万人； 中心村：2000 人 6）中国開発区可持続発展的理論、方法和実証研究， 李艶 呉次芳 叶艶妹編著，中国農業出版社， 2007 年，pp. 8-9. 7）上海統計年鑑（1989-2010 年）8）四つの地区の分類、中心区：黄浦、盧湾、静安；周囲区：徐匯、長寧、普陀、閘北、虹口；近郊区：閔行、宝山、嘉定、浦東新区（金橋、張江、陸家嘴、外高橋）；郊外区：金山、松江、青浦、崇明、奉賢区、浦東新区（その他）。 9）2009 上海開発区発展報告書，上海市経済和信息化委員会編， 上海科学技術出版社，2010 年 10）上海市松江新城総体規劃綜述，上海建設科技第 4 期，2001 年 6 月，pp. 3-5. 11）松江人口網 http://www.sjpop.gov.cn/（2005-2009 年）